



スヌーピーのひみつ

A to Z

チャールズ・M・シュルツ

谷川俊太郎 今井亮一 井出幸亮著

新潮社 2016

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ここ松蔭の図書館にはなんと10万冊を越える本がそろっています。これから6年間、たくさん本を借りて、いろんな本に出会ってみてくださいね。(たくさん借りるといいことありますよ) 一つ学年が上ったみなさんは進級おめでとうございます。今年度もたくさん図書館を利用しに来てください。

さて、今月は、スヌーピーの産みの親、チャールズ・M・シュルツさんの本を紹介します。普段、図書館の中を歩いたり、授業で図書館に来る子たちをみていると、かわいいスヌーピーの筆箱やグッズを持っている子を毎年よくみかける気がします。(わたしも高校時代、サブのかばんとして、ファミリアで買ったスヌーピーのかばんで通学していました、なつかしい...) スヌーピーは、USJにもアトラクションやグッズがあり、2016年には東京にスヌーピーミュージアムが開館し、ここ神戸には去年、スヌーピーのホテル、「ピーナッツホテル」がオープンし、話題になりました。時代を問わず、本当に長く愛されているキャラクターの一つですね。そんな愛らしいキャラクターであるスヌーピーをこの世に生んだのが、チャールズ・M・シュルツさん。この本はそんなシュルツのすべてをA to Zのキーワードでとりあげ、収録した1冊です。

シュルツさんは、父の英才教育により、小さいころより、画を描くのが好きで、高校生の頃は、普通の学校とは別に、「アート・インストラクション・スクールズ」という画家養成学校に通っていました。シュルツさんは、ここで生徒として、そして、卒業してからは教師(添削者)として、お世話になるとともに、自身の漫画家になる夢を後押ししてくれた、シュルツさんに多大な影響を与えた場所でもありました。そしてそこで出会った親友や、友人、片思いをしていた女の子は、漫画『ピーナッツ』のキャラクター、そうあの有名なチャーリー・ブラウン、ライナス、赤毛の女の子となって登場しています。

また、スヌーピーのイラストやグッズを見ていると、スヌーピーがスポーツをしているシーン多くないですか？ これはシュルツさんが小さいころより、絵だけでなく、スポーツ経験も豊富だったことから、きています。あの有名な、ライナスの安心毛布(Security blanket: チャールズ・M・シュルツによって有名になったとしてオックスフォード英語辞典にもものっているのだとか...)は、シュルツさんの子どもが毛布を引きずっているのを見て思いついたそう。このほかにも、結婚したシュルツさんが、妻と5人の子供とカリフォルニア州で穏やかに楽しくらした日々からアイデアを得たエピソードも、『ピーナッツ』にはたくさん登場しています。

漫画『ピーナッツ』に登場するキャラクター、そしてエピソードは、シュルツさんが体験した出来事、出会った人そのものなんだなあと思わせてくれます。実在したものの、人から生まれたからこそ、わたしたちはシュルツさんのキャラクターに対して愛着が湧くのなんだなあと感じさせられます。そしてそれこそが長年愛されている一つの理由かもしれませんね。

本書の中で、「シュルツは友人たちには仕事という言葉を使うことはなく「スタジオに行って面白おかしい絵を描かなきゃならないんでね」と冗談めかした。」とありますが、このシュルツさんの仕事への姿勢、描くことへの愛、とってもすてきじゃないですか？ こんな風に自分の仕事のことだれかに話せるといいなあ。

この本を読んでいると、スヌーピーをはじめ、漫画『ピーナッツ』に出てくるキャラクターたちがより愛らしく、魅力的に思えてきます。さて、今月4月13日から大阪のグランフロントのナレッジキャピタルで、「スヌーピーミュージアム展」大阪開場が開催されるそうですよ。この本を読んで、シュルツさんの原画を見にいったみませんか？ シュルツさんの漫画『ピーナッツ』を読みたい方、図書館に『スヌーピー全集』揃っていますよ